

0 150 cm 10 20 30

SEKISUI JUSHI

摘題和歌集

544
テ
6 92

橘顯和歌集

春部

年内立春

御製

初
けふの春はあけぼのさかきぬけふの春はあけぼのさかきぬ

後

うねの春はあけぼのさかきぬけふの春はあけぼのさかきぬ

元日立春

急須

年たふさふさの春はあけぼのさかきぬけふの春はあけぼのさかきぬ

師重

けふの春はあけぼのさかきぬけふの春はあけぼのさかきぬ

海老立春

富朝

けふの春はあけぼのさかきぬけふの春はあけぼのさかきぬ

湖上立春

雅彦



早春柳

柳花は春の初

見雅

春の初柳の花は春の初

春風香水一時来

春風に花の香

見雅

春風に花の香は春の初

春自東来

春風は東から

後拾遺

春風は東から春の初

師重

春風は東から春の初

雪中春来

雪中春来春の初

春来常逢

春風に花の香

後拾遺

春風に花の香は春の初

春至氷解

春風に花の香

春風に花の香は春の初

元日宴

春風に花の香

見雅

春風に花の香は春の初

貴賤迎春

春風に花の香

春風に花の香は春の初

兼侍小日

春風に花の香

春風に花の香は春の初

兼侍小日

春風に花の香

春風に花の香は春の初

雪中春来

春風に花の香

後拾遺

春風に花の香は春の初

師重

春風に花の香は春の初

霞如春 尤若后

春はあけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

霞如春

尤若后

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼの

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

あけぼのさかきぬ花のうきをみれば

晩秋映目

師兼

夕陽の紅き雲のうらも霞を染めていづれも暮れしうら

孤島を

同

あふみわたる水は流れていづれも暮れしうら

秋中閑居

慈徳

きしきしと水は流れていづれも暮れしうら

霞籠樹

後京極

うららかに霞を染めていづれも暮れしうら

霞籠水御

同

夕陽の紅き雲のうらも霞を染めていづれも暮れしうら

霞籠遠樹

後京極

うららかに霞を染めていづれも暮れしうら

定家

夕陽の紅き雲のうらも霞を染めていづれも暮れしうら

慈徳

あふみわたる水は流れていづれも暮れしうら

晩霞籠春山

後京極

うららかに霞を染めていづれも暮れしうら

晩霞籠秋山

慈徳

あふみわたる水は流れていづれも暮れしうら

晩霞籠浦

中近江道有臣

うららかに霞を染めていづれも暮れしうら

霞籠園池

頼政

あふみわたる水は流れていづれも暮れしうら

霞籠行舟

慈徳

うららかに霞を染めていづれも暮れしうら

定家

田家夢

後成卿

相國夢

後京極

竹間夢

平貞時

藤原竹夢

西宮

陽佛

定家

為家

竹羅園夢

為家

常為夢

水河

常為春友

賴政

常為中友

師重

常為亮夢

新羅

常為中開夢

定家

常為中開夢

考之極き之

為

馬受

馬定

阿彌陀佛
 阿彌陀佛

阿佛

[illegible]

賞伯公

卷末信實

新川小沙弥のきやうねとをのりやうとふきやうと

遠寄長策

水竹居

これほどよい地ふりなきは人の道に常なる

雲中君

前大仙、為也

きえすゝと歸來し事と物とのくわつりよりかへるべし

常川伯名錄

宣家

Handwritten signature

吳上君以朱

卷之六

神奈川縣立第一高等學校

水色香泉

新書

月風心妙法の球をけりて鈴をふりてあまのねをけりて人

田邊善家

三

小園氷山のありきつみなりにつれさるる風よ

2

為家

いふらはあまの川を流るる水

撥搖若舞

卷之六

● 此は心野原を渡る道に牧場を有する

•

師美

我の心は風の中にありて人を知る如し

西の音

西行

竹園歌

頼政

松原歌

小侍

谷鹿歌

基

山崎歌

野後歌

中納言

新撰

新撰 山崎歌 野後歌 中納言

野分歌

基

基

基

山崎歌

基

新撰

基

基

梅うらうきよりうき世ありては春の心を

梅溪文集

糗政

萬代の春をくぐりて
 花の傍命をくぐりて
 春をくぐりて
 花をくぐりて

梅散得香

師義

とふのりふはきさか ころもろりめ 梅枝 けふのふと

阮漢梅

後德太子在焉

物は白く移してあつた

全集

柳絲隨風

院印

[illegible]

柳無氣力

師柔

春の宿はさきさきのうららかにあそぶ鳥のうららかにあそぶ柳のうら

翠柳村歌

後方印泥製

あつたが、そのころから、

宣和

常らたしを春のやうに
なれど人知ぬの柳
ぬれぬ

交颈柳無雙

前園石室

校の柳をよみしとてふるものなる魚路

柳拂池水

經漸

池水たぐさしとてし柳のこゝあり梅ふりうをてりみり

河前柳意

卷之五

和蘭と交易するに由る利を以て税を以てし

禁庭柳

後成鄉

まらねと玉柳をさへり柳のさへりさへり

肉妻小柳

丁巳仲夏

青柳のうゝに花をさし置く風情

禁中柳意

粉皮

葉はさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳か

ふさ柳

西沢

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

柳柳

河津柳

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

柳為寺橋

意林

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

ふさの柳あふみいふ

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

信濃の柳

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

水邊の柳

意林

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

高家

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

河津の柳

意林

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

草柳

意林

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

河津の柳

意林

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

春文雨

意林

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

暮山春雨

後者の信濃柳

ふさのさきつゝ花は後のあふみいふは花の柳

雨申春夜

後者の信濃

春風吹綠柳 燕子剪輕盈

春風 耕

綠柳輕盈 燕子剪輕盈

燕子 剪

輕盈燕子 剪輕盈

剪輕盈 燕子

燕子剪輕 盈燕子剪輕

盈燕子 剪輕

盈燕子剪 輕盈燕子剪

輕盈

輕盈燕子 剪輕盈

剪輕盈 燕子

燕子剪輕 盈燕子剪輕

春風吹綠 柳燕子剪

柳燕子剪 輕盈燕子剪

輕盈燕子 剪輕盈

燕子剪輕 盈燕子剪輕

盈燕子 剪輕

盈燕子剪 輕盈燕子剪

輕盈

輕盈燕子 剪輕盈

剪輕盈

燕子剪輕 盈燕子剪輕

盈燕子 剪輕

盈燕子剪 輕盈燕子剪

輕盈

輕盈燕子 剪輕盈

剪輕盈 燕子

燕子剪輕 盈燕子剪輕

盈燕子 剪輕

盈燕子剪 輕盈燕子剪

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

推後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵
解集

しるしをいふは、
しるしをいふは、

相後平蔵

しるしをいふは、
しるしをいふは、

解集


~~~~~

海唇部 料

~~~~~

海唇部

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部

~~~~~

~~~~~

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部 印

~~~~~

海唇部

~~~~~







春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

雅後

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

師意

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

幽栖春暎

師意

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春夜樹

家隆

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

後春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

雅後

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

顕基

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

龍永

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

師意

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ春の光のさすやうな心なほ

歳時春のさすやうな心なほ

春の光のさすやうな心なほ



彭勃機

燈懸水沍明

九河躬恆

他水浪靜

春日望山

實心良教

黃河為本

從之從新象

葛山春望

中野富壽親

字春望

意之所為

水鄉春望

太上天皇

夢隱

江上春望

冷泉太政大臣

香溪為平

院·每·月·停

海色春望

院御製



山家

家の内なるものも外のものも同じくあるものなり

新柳

山寒花遅

春寒甚後

みづのうへに花を散らすものなり

漸得花

師無

いづれも花を散らすものなり

望山詩

修成師

山家

いづれも花を散らすものなり

雨中待客

宜歌

いづれも花を散らすものなり

為歌

いづれも花を散らすものなり

待花日言

後集松泉

いづれも花を散らすものなり

中將

いづれも花を散らすものなり

待花日言

業海

いづれも花を散らすものなり

定歌

いづれも花を散らすものなり

定歌

いづれも花を散らすものなり

定歌

いづれも花を散らすものなり

定歌

定歌

山家

いづれも花を散らすものなり

定歌



卯の載

~~~~~

佐藤松道

坂柳待花

高道

~~~~~

岡本待花

如河

~~~~~

待藤茶

後藤守左衛門

~~~~~

霧中待花

慈辰

~~~~~

待花仙雲

頼政

~~~~~

師重

~~~~~

未發茶

後頼

~~~~~

花未開

光俊

~~~~~

山紀終徒

~~~~~

為茶田吉

源後頼

千載

~~~~~

終田為茶

源貞信

金葉

~~~~~

行後為茶

右衛門

~~~~~

山後為茶

後藤守左衛門

水

舟中見

集

舟中見

續

集

舟中見

續

集

舟中見

續

集

舟中見

續

集

舟中見

續

集

舟中見

集

續

集

舟中見

續

集

舟中見

續

集

舟中見

集

舟中見

續

集

舟中見

續

行

[illegible]

新鴻猷

あつちからねんころりぬきやう

陽明

少病後

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically.

李商隐

宣和

Handwritten signature: *John W. Jones*

紀清所

續後撰

光緒二十九年

[illegible]

乾山乾

金

大寧大哉長安

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, written vertically.

聊齋誌異

新撰

一 重酒を為す

とくともいふ人々を以て其の爲に
しるす

紀振驥

此

[illegible]

飛曉鏡

家隱

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically.

字部

高師堂

續古吟

ふらふら霧のちふふらふ花の夜やとをきぬきり

夢をうきまきしつゝ
 夢をうきまきしつゝ

高子集

寅卯

ふたつちうとくしあひのまはしきゆそのさか

湖邊夕照

海晏縣志

(Faint handwritten signature or scribble)

趙那多

家

美濃のちやうど

[illegible]

今より此の世を去るは

又書此病ふては妙宗人三昧のたふしをうん

[illegible]

内々いふ事とてうへふなりとて愛をもむとて地といふは

夢の如く愛をうけてゐるが、
 かくいふうちに、
 ちやうどわが家のいふやうに、
 ちやうど。

1

西園公已
二

[illegible]

あつたけとも次郎の坊主つともあふれぬ

月 廿二日 楊子山 記

常々もあつたやうとあるで、常の月といふやうに

素心すゝめりてなほあやふくみゆらうとぞ

萬一七日迄三日前

[illegible]

全

玉留案

乃更將寶扇

後探

隆侯

恒成

未為行客

師惠

歸來爲人

宣和

高

一
乃
佛

三

山花多

李中江長

今集

山家留客

Er

後此書為

憶京師

ありき

後漢書卷之四

子

2

後新選

良選

後新選

海軍氏

師範

後新選

新下田幕

東京師範

凡種

普光園通前園田左左

新初撰

新下田口

後新撰

三三三義重

新撰

新撰

後新撰

定次

續

新下田志

左京文顯輔

新下田友

新下田

新下田友

新撰

新下田友

新撰

仍舊撰

~~~~~

對苑恩友 . . . 師兼

~~~~~

松下鐘

如所

~~~~~

後苑詩人

讀高門虎補

~~~~~

後苑待客

源定宗

~~~~~

後苑狀元

前番源雅智

~~~~~

後苑忘行

一 慈親

~~~~~

死未飽

後二位為實

~~~~~

心未飽

師兼

~~~~~

未末忘

源仲正

~~~~~

願上望苑

慈親

~~~~~

~~~~~

遠望山極

匡盾

~~~~~

遠望山歌

望家

~~~~~


高家

如佛

為定

後者如定

如行

江中宿信

後者如定

高家

如佛

為定

後者如定

如行

江中宿信

高家

高家

高家

後者如定

如行

江中宿信

高家

如佛

為定

花為春友

權字之圖信

蘇軾詩集卷之六

基後

[illegible]

花時心不靜

和泉式部

世常のやうな事をしなすに以てぬ

壯志有就

意德

漢より春のさけは
栴檀の香もさき
まはるるを
かきかへて
かきかへて

花習地毫

後成卿

[illegible]

龍虎寺

張政

[illegible]

紀述

强与事邦有款

乙辰
乙辰のうみの神やうまうしをきく

死帶疾

一順助法親王

好むつゝは涙を流す空しくも物心の中不審なるを

對兒思西

後成所

しるはのつゝきふたつとてあはれ

對死問首

師夷

[illegible]

花忘卷

歌

[illegible]

春心寄死

實政

春ふきはすしむるを

恩紀意

鴈長明

わいやはやとてうきうきとて

[illegible]

小借帳

夢いさし路地をゆく春を待つを記す

中師之定稿

為に小部をこゝに於て其の如く

源後預

[illegible]

明

[illegible]

花隨風

いづれにせよ、
いづれにせよ、

紀有輝遠

Handwritten signature or name in cursive script.

一
西行

ちんぽんふくはなもつしちやういふ

和蘭のちやうど

2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526

師重

春風吹花散如雪

北漸稀

[illegible]

家溪

ちりきりおとばをきつひんが夜つるふ春のゆふう

稿後記

[illegible]

大御書御書

無因教書

大御書御書

晚庭書

伏見院御書

宣旨

宣旨

宣旨

宣旨

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

大御書御書

西後唐景

前周自天啓后

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

唐景通風

唐景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

唐景通風

唐景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

唐景通風

唐景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

唐景通風

唐景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

唐景通風

唐景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

唐景通風

唐景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

刑部卿范景

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

范景

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

范景通風

范景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

范景通風

范景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

范景通風

范景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

范景通風

范景通風

あつたつたのふたつにわかれぬあつたつたのふたつにわかれぬ

[illegible]

漢京苑

ふも服は衣の神なる所なりと云ふを善し言ふ

宣和

後漢書卷八

子所宜定

肥後

卷之五



汪秉康

卷之六

續寶山院

後京兆

時物之盛

師兼

[illegible]

超空龍苑

意法

桃苑浮水

雅經

山路春雅

師意

春雅也子

山田南村

料意

路南村

西田南村

勝余法師

白くはるかにあけぬる春の日の光

蛙河南村

高橋の意法

春の日はあけぬる春の日の光

杜田重景

国庭重景

師兼

叔御重景

後京極

映江御繩

楊梅の意法

殿上御繩

師兼

春の日はあけぬる春の日の光

木下脚端

料雲

~~~~~

魚腹

強改

~~~~~

雙路斷端

魚腹

~~~~~

昨兼

~~~~~

~~~~~

強改

~~~~~

脚端留人

魚腹

~~~~~

水道脚端

前平切に定まる

~~~~~

後方の足跡

~~~~~

杜長家水

魚腹

~~~~~

折款を

魚腹

~~~~~

款を交款

魚腹

~~~~~

水道款を

長束靴網

~~~~~

水庭款を

魚腹

~~~~~


我々も此の如く思ふ事多し

藤下歌

白土右衛門後成

我々も此の如く思ふ事多し

松次

我々も此の如く思ふ事多し

歌の傍岸

若松

我々も此の如く思ふ事多し

信濃歌

定歌

我々も此の如く思ふ事多し

若松

我々も此の如く思ふ事多し

若松

我々も此の如く思ふ事多し

河佛

我々も此の如く思ふ事多し

里歌

後二重山歌

我々も此の如く思ふ事多し

田舎歌

長生山歌

我々も此の如く思ふ事多し

信濃山歌

我々も此の如く思ふ事多し

藤下歌

松次

我々も此の如く思ふ事多し

松次歌

白土右衛門後成

我々も此の如く思ふ事多し

後二重山歌

[illegible]

暮春曉日

美細毛

[illegible]

海山暮春

雅經

たふし波のきつてゐる、あふのこは、うのこは

江上暮春

華陽之室

何處。新山新水，新水如新。新水如新，新水如新。

為強

てふに物故うりはあのをききあひてよき色なり

舟中暮春

宣和

きつちをぬいすゝ五舟共春のさくらをわかれもてふ船

為家

此の如く、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

為之

三ノ宮の御前

心佛

[illegible]

山家暮春

高

業のそとに印をのゝかぬ春のしづかみ

彭公清

[illegible]

後方的經濟製

[illegible]

張初子卷之四

五

常路やまのりやふくちわいはいふやそ春さね

旅泊暮春

漆川にたのきふきりかつらあきうのいもつたふ

留春不宿 料雲

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

情春似友 意遠

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

白草二月書 院印製

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

三月書 方東信実

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

新治二月書 珠賢法師

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

海路有夢 藤原伊能

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

藤原三月書 定家

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

春三月書 内大臣

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

後深人孝た大臣

さふいふふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

摘題和歌集

夏部

竹亭夏来

師兼

あつらひのうらけの軒られけのささけにけり

あつらひの夏部を詠 護政

うらけのうらけのうらけのうらけのうらけのうらけ

送春如昨日

源道隆

夏衣きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

夏衣情着

耕三

春衣きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

師兼

あつらひのうらけのうらけのうらけのうらけのうらけ

都鄙夏衣

如行

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

貴戚更衣・急須

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

春後思記・宝珠

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

唐後思記・西行

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

平餘記・秋阿

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

餘記似春・仰兼

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

新樹坊

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

庭樹修林 徑信卿

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

院御製

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

樹後似秋 待賢門院御川

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

西中末繁 廣東基後

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

卯茶初開 光後

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

暮妙卯茶 右近大將實房

ふたつにわかれしうきものよかたにわかれしうきものよ

後成卿

業典人...
...

傳纂卯戌
...

...

後京極

卯花似月

白川辰卯

...

月前卯戌

後德寺

...

野徑卯戌

光俊

...

卯辰亥踏

後京極

...

卯兼

...

小傳後

...

卯辰辰踏

...

...

...

...

...

...

...

...

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

光俊

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

卯茶花のさきさきと辰茶花のさきさき

卯茶花

辰茶花

頻郭云

郭云

完後

而

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

郭云

杜間郭云 友弟保孝

野徑郭云 賴政

山部郭云 宣家

馬宮

山家晚郭云 後徳太子宮

山部郭云 權中細言書方

友弟保孝

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

山部郭云 權中細言書方

船中郭云

後京花

ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

慈娘

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

新張時鳥

後京花下野

はてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

郭中郭云

家隆

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

郭中郭云

耕

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

郭云郭云

中納言実行

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

後京郭云

後京郭云

後京

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

郭云郭云

後京郭云

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

後京郭云

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

未飽郭云

後京郭云

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

時中郭云

郭云

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

郭中郭云

慈娘

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

郭中郭云

郭云ふてふねいふふねと流花のりふてふねいふふね

馬家

清のふきはのねちねちの道にわたりて

吉光高南

慈張

けのあはれにわたりてわたりてわたりて

後京極

いそぎにわたりてわたりてわたりて

沼邊高南

慈張

いそぎにわたりてわたりてわたりて

夕採高南

あかきとてわたりてわたりてわたりて

後高南

常師と推知

いそぎにわたりてわたりてわたりて

院更高南

後京極

たかきとてわたりてわたりてわたりて

慈張

いそぎにわたりてわたりてわたりて

盧橘高南

基後

いそぎにわたりてわたりてわたりて

橘達高南

都芳門院高南

いそぎにわたりてわたりてわたりて

盧橘高南

鎌倉高南

いそぎにわたりてわたりてわたりて

盧橘高南

慈張

いそぎにわたりてわたりてわたりて

盧橘高南

慈張

いそぎにわたりてわたりてわたりて

盧橘高南

慈張

漢五月朔

源信家

凡雅
うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

江戸五月朔

源三行次

以後撰
新波はせうふくはつりあふしつたふ川のふ

海邊五月朔

源三行次

源三行次
うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

舟中五月朔
舟中五月朔

船中五月朔

源三行次

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

山梨五月朔

皇太后宮大夫修成

都人ともうきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

源三行次

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

源三行次

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

岡本五月朔

源三行次

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

古本五月朔

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

耕三

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

源仲正

源仲正

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

源仲正

源仲正

うきとせふあめのかつはかりぬふしつたふ川のふ

源仲正

源仲正

修善寺

あゝいづきぬ人様をいふはあはれなるものなり

連日大雨、師業

五月五日、いふはあはれなるものなり

五月五日晴

風かきつる人々、あはれなるものなり

あはれなる人々、あはれなるものなり

同月五日

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

あはれなる人々、あはれなるものなり

修善寺

修善寺

後折達

八
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

後漢書

寺邊水鷄

✓

[illegible]

以接保

水難警賊
道因序

夢は浪のうねり
あふれど海に沈み

有難助其安
後京極

業はよく空の如く、うつの憂へおちるをう

連張水新

水部 坊 之 庭 之 樂 土 之 名 也

對水待月
黃東基後

金榮

吾は乃ち此の如くいふも亦其の如くいふ

西溪月明
暖魚浮柳

予は此の如く思ふに、
此の如く思ふに、

西樓夢月

懷柔他懷政重以養

凡雅

又此の風ふつとて我々を吹く所ありと云ふ

卷之六

夢中見たりと化し秋の夜半の月を

要

中 心 的 人 物 是 誰 呢 ？ 是 誰 在 這 個 時 刻 站 在 前 面 呢 ？

水鏡玄月

後集

幸と船に乗りて
大坂の陣を戦ふ

河上公

懷素和尚製

いづれも相好なるを月清勝門并に白く取

船中夜月

後集

[illegible]

禁之延三月

漫光齋院心製

以爲

[illegible]

夏月透竹
、
黃雲去後乃長

二校書影印
明子墨行
原書藏
明子墨行

竹圃夏月
原乘

風かき朝の竹をわかれしうら
神こころをうらまへて

柑竹夏月

体史元師製

新少載

久松義典の政治小説の中心人物

耕

三つに座敷柄を吹く風小川のうづらの水比つゝ

枕上夏月

師承

中々いふにふふ明きう花うと比交の月う分

辛亥夏月

善法

まづはこれの糖のまゝの水糖として用ゐ

周采夏月

宣和

門田如也此乃古之瑞葉也

龍虎呈祥

權中興之歌

續後撰

夏をこころの東に草花むくむにや

依月長源

修禪寺藏

後移送

うき道い漢かりき交のよりの桂川 川やあきら

水月如秋

前大帥言經席

新後撰

あのかにむし月をみればさかきかきふらん

夏月如秋

友東郭

氣

小羅系主を以て如く徴せしるべきなり

夏月易知

耕

中々ふかきわづかに今日始まる。共第2のよじ

歸美

[illegible]

暮春方明月
一
月

夏のあま月をみちふたふとて
いかに

閨中扇
師範

[illegible]

生風忘躬
忘德

和光寺
御々地持々々々々々々々々々

明折豐茂

物々々々々々々々々々

祝嘏
嘏

3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527

明倫彙編
家範典

新煖機
夏草はいつまでも花を咲かす

明焦麥露酒

高金浣御製

乃々
 何れのものか

月まのそと
後

丁卯年七月廿三日

夜思，明窗書

皇太后文文後成

[illegible]

而後思復安
能同

いねんそいのふし 藤原がきさくふふあきま

雨後豐茂
小待後

何と云ふ事か。此の如くは、

後漢書卷之六

よいのをしきりしなすゝめあれは

級別明黃表

姜承隆信

凡雅雅

うてみまはれいけいしあはれし海草ありしに草花はれし

久光聖書

なくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

那々草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

高草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

高草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

高草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

新草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

風和草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

水辺草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

河辺草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

水草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

法性寺

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

西後草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

後草

わくわくあはれし草花ありしに草花ありしに草花ありしに

藤人申とて居る野、あはれと驚き、あはれとさへりて

草衣先秋、一頭照法師

夏はくもとて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

草野秋近、お市内言定歌

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

後より尾内歌

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

後より尾内歌

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

草野秋近、お市内言定歌

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

秋聲帯雨荷、踊り

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

夏鈴雨

權中納言公宗

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

夏山胡松

家隆

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

雲蘭遠望

源俊親

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

夏後曉雲

家隆

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

行旅衣衣

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

禁中後報

後より尾内歌

あはれとさへりて、あはれとさへりて、あはれとさへりて

曉更照射

後より尾内歌

何うか物^毎々かか^りつゝあはれ^んき^なもの^をさ^して^いるやう^な

連夜精川

樹や新柳^のす^くす^くと^いふ^{やう}な^にあ^らわ^れて^いる^{やう}な^に

常似霞

耕雲

ま^じに^いふ^{やう}な^にみ^やま^の物^はな^りふ^しつ^てい^ふやう^な

水宿亭

家産

常^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

湖上堂大

慈航

常^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

湖邊亭多

い^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

江上堂大

頼皮

い^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

海邊見景

後を相伝^ふ所^なき

清^くあ^らわ^れて^いる^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

洞窟堂大

定安

目^のま^じに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

為家

い^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

為家

い^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

為家

い^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

叢間屋

三乗入道^の大^な

い^ふやう^なに^いふ^{やう}な^にい^ふやう^なに^いふ^{やう}な^に

賞照叢

師兼

東のくさきとまわりの行雲の如くはくさく

く 叢 雲 一 物 何

賞 通 宗 師 兼

はくさくまわりのくさくはくさくはくさく

賞 大 通 廉 意 張

軒のくさくはくさくはくさくはくさく

賞 照 兼 中 後 通 宗 兼 宗 兼

まわりのくさくはくさくはくさくはくさく

賞 照 兼 中 小 侍 長

はくさくはくさくはくさくはくさく

賞 照 兼 中

はくさくはくさくはくさくはくさく

賞 中 兼 宗

後 通 宗 兼 宗 兼

はくさくはくさくはくさくはくさく

賞 兼 宗

師 兼

はくさくはくさくはくさくはくさく

賞 大 通 廉

後 宗 兼

はくさくはくさくはくさくはくさく

意 張

はくさくはくさくはくさくはくさく

賞 大 通 廉 秋 已 出

謙 宗 兼 宗 兼

はくさくはくさくはくさくはくさく

賞 大 通 廉 火

小 侍 長

はくさくはくさくはくさくはくさく

後 通 宗 兼 宗 兼

[illegible]

師兼

主の目をうつてやまみねをうりよふよふの如き人

謙收大

意

夕べもほくほくの秋のやうなやうな
閑寂故を 室伏

閑居叢書

宣和

おにいさまへ
あけましておめでとう
のちのちよく

為公

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a name, oriented vertically.

五

故きまは網をとりてふりふり石をうへ

月餅

[illegible]

やうな

張波

[illegible]

墙夕颜

耕

[illegible]

蓮雲似玉

痛念存心

少衆ありて道のみを衆の爲に与へんとするまじきなりけ

近見池蓮

卷之六

心と地のみきは中道よりありふす如きもみられ

荷葉花水

前大姊之親雅

小のうきすはなと運集はうきと境の地なり

冰室忘夏

師乘

[illegible]

水中交冰

後京極

すのいりて田んぼのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

くさくさいのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

くさくさいのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

くさくさいのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

くさくさいのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

くさくさいのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

くさくさいのうへに水が流れてくる

深山泉・家隆

泉為夏極 為極

くさくさいのうへに水が流れてくる

為極

くさくさいのうへに水が流れてくる

泉邊避暑 按察使の通

くさくさいのうへに水が流れてくる

泉邊避暑 師兼

くさくさいのうへに水が流れてくる

泉邊避暑 師兼

くさくさいのうへに水が流れてくる

泉邊避暑 師兼

くさくさいのうへに水が流れてくる

泉邊避暑 師兼

ふくみかきしなむいさくもはしゆくみさの西

宣家

ゆきしら神三郎のちかひにうきやうのち

理経晩之

急浪

ふくみの秋ふやあつたふらにあはれきとふふあ

夏杜ヲ雨

家隆

あふいふふふふふふふふふふふふふふふ

夕立易過

耕雲

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

雨後閑情

皇太后文太皇太后

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

漢書昭帝御製

蝉のうきとふくみあふあふあふあふあふあふ

後京極

むきあふあふあふあふあふあふあふあふ

馬上閑情

急浪

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

情勢夏深

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

ねり待風

仰兼

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

夏風涼衣

鎌倉右大臣

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

樹陰夏風

家隆

あふあふあふあふあふあふあふあふあふ

松風秋近

養老親重

Handwritten text in cursive script, likely a signature or a note, located on the right side of the page.

九州大學圖書印

